
読みたくなかったら読まなくていいよ。

財前太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

読みたくなかったら読まなくていいよ。

【Nコード】

N9301B

【作者名】

財前太郎

【あらすじ】

良い文章なんて、芥川だの夏目だの、そこらじゅうにあるもんだよ。でもさ、悪い文章ってのは、なかなか無いもんじゃん。もう、文法とか、漢字とかも、全部メチャクチャでさ。どうでも良い内容でさ。下手くそでさ。この小説は、まあそんな感じなんだよ。

高校生活ぐだぐだ

駒野つつー国語教師がいるんだけど。

突然キレるんだよね。本当に。

なんかさー、機嫌が悪いのかは知らないけどさ。

生徒にあたるのはやめてくれよ。

で、俺のクラスの担任はそいつじゃねえからいいんだけど、同じ部活の小笠原ってえ奴は、そいつが担任なんだよ。かわいそうだな。毎日、電車ン中で愚痴を言ってるぜ。

「駒野、何かしらんだけど、俺に目え付けてるんだよなあ……どうして？」

「知らネェよ。あいつ、機嫌の濃淡が激しいんだよ。授業うけるだけでも、緊張すんだよ」

……分かる。

「いい時は、いいんだよ。でもさあ……」

……悪い時は、悪いよな。

「ほんと、中学ん時と違って、偉そうだよな。ま、仕方ないけど」

学校側は、二言目には文武両道ってヨォ、うるさいよ。どっちかにして欲しいよ。

応援練習なんかも、真剣なんだよ。

応援団員がデケェ声で怒鳴るんだよ。馬鹿みたいにさ。

やめて欲しいよ。一年生の団員が可哀想だよ。

でもさ、何だかんだ悩んでも、楽しいもんだよ、学校って。

そう思えるだけでも、幸せなのかもね。

無理だから

頭よくなりてーなー！

昔っから馬鹿でよ。「坊っちゃん」じゃないけど、親父に似たんだな。

なのによお、世の中じゃ東大だあ京大だあ、ふざけんじゃねえっ！
…まあいい。どうせ俺は捨て駒だよ。

漫画では、アホ高校が東大に行くなんて言ってがよお。

行けネエよ。実際は。所詮漫画だな。

東大に行くには、それなりの金があつて、環境があつて、出会いがあつて、才能があつて、器量があつて……。

でなきや、無理だよ。ばからしい。

きっと、憲法9条が改正されるようになったら、俺たちみたいな残飯が、ごそごそ自衛軍に集まってくるんだろうな。

それで、防大^{ぼうだい}を出たやつらに扱き使われるんだろうな。
いいんだよ。それで。

別に、偉くなりてえとは言わねえよ。

ただよ……。

下っ端は楽だぜ。

重い責任もなけりや、ストレスだつて……きっと無いんだろな。
上役は大変だよ。指示出すなんて、大変だよ。

俺たちは、うんうん頷いてりや、いいんだからな。

大変だよな。

あるんだよ。

生まれた時から決まったモノってよ。

そいつにゃ、勝てねえよ……

学生のくせにツンと鼻高くしてる野郎もいるしヨオ。

ババアのくせして、年金年金豪遊豪遊。

そーゆー奴だっているんだよ。

世の中おかしいかも知れないぜ。

でもよお、そんなのどうでもいいんだよ。

安倍さんのカミカミしゃべりがどうか、

柳沢さんの「産む機械」がどうか、

女の議員さんの止まらぬしゃべりも、

どうでもいいんだよ。

みのさんは、毎朝ずばっとやってるがよお。

大変だぜ。

あいつらは、あいつらで。

ああ、もちろん、俺たちだって辛いぜ。

奴らには才能があった環境があったセンスがあったお金があった。

だけどよお……

大変だぜ。

天下りくらい、させてやったら？
大変だし。

昔話を一度に読める話（前編）

昔むかしある所に……。

お爺さんとお婆さんがおりました。

お爺さんは山へ芝刈りに、お婆さんは川へ洗濯に行きました。

洗濯をしているお婆さん。

そこへ、どんぶらこどんぶらこ……と、大きな……いや……小さな桃が流れてきました。

桃の大きさは親指ほど。ちょうど一寸くらい。

お婆さんが桃を持って帰宅すると、お爺さんはすでに帰っていました。

「おじいさん。川から桃が流れてきてねえ」

「どれどれ、見せてごらん……ほう。小さいねえ」

「どうしようかねえ」

「すてちゃえよ」

「もったいないよ」

「じゃあ……」

桃は食後、食べることに決まりました。

そして食後、お婆さんが包丁を持って

「切るよお！」

お婆さんは、桃をすっぱりと半分に切りました。すると…

桃から出て来たのは……小さな小さな男の子！

「あらまあ！」

お婆さんは腰を抜かしました。

「マジかよお！」

お爺さんは目を丸くしました。

「どうでしょう？」

お婆さんは困惑の表情を浮かべました。

「どうしようかね…」

お爺さんは顎髭を触りました。

「育てられないよ…」

お婆さんは言いました。

「どうしてだい？」

お爺さんは聞きました。

「だって……出ないだろう…」

お婆さんは赤面しました。

「……お乳かい？」

お爺さんは苦笑しました。

「まあねえ……」

お婆さんは答えました。

「赤ちゃんポストなんてのも、あるぜ」

お爺さんは鼻をこすりました。

「馬鹿ねえ。恥ずかしくて出来ますか！」

お婆さんは眉をひそめました。

「じゃあ、どうすつか？」

お爺さんは、ふうつと息を吐きました。

「……そうだねえ……」

何年か経ち、小さな桃から生まれた小さな男の子は、Sサイズのまま成長しました。

その男の子は「太郎」と名付けられていました。

そんな太郎にも、思春期が訪れました。

「ばあちゃん、じいちゃん。おら、隣の国へ行く」

「どうしてだい？」

「鬼退治だ。綺麗な女だけが、鬼に襲われるだよ」

「それは鬼じゃねえ。強姦魔だ」

「とにかく、何でもいい。隣の国へ行く」

「理由は何なんだい？」

「女にもてたいんだよ」

「それだけが理由かい？」

「そうだ」

「……………」

お爺さんとお婆さんは、太郎を止めませんでした。
逆ギレされるのが怖かったからです。

小さな太郎は、お爺さんからもらったお椀と、お婆さんからもらったお箸と、薬物中毒者が捨てた注射針を持って、隣国へ向かいま
した。

昔話を一度に読める話（前編）（後書き）

（注）後編へ続く可能性があります。

昔話を一度に読める話（後編）

お椀に乗って箸をオールに、太郎は隣国へ流れ着きました。

上陸してさっそく、太郎の目に入ってきたモノは、鬼に襲われて
いるお姫様の姿でした。

「きゃーっん！」

「ぐわははは！」

太郎は激怒した。

太郎は小さい体を利用し、鬼の胃の中に入り込みました。

胃中を刺されまくった鬼は、たまったもんじゃありません。

「いでえーっ！やめろおお！」

太郎は、尚も刺しまくりました。

「くそおおX！」

鬼は痛さのあまり気絶し、その際に頭を石にぶつけ死んでしまいました。

なんとか胃からはい出た太郎は、お姫様に近寄りました。

「お姫様、お怪我はありませんか？」

「はい。ありません」

「良かった。ところで、僕と結婚してくれませんか」

自分がチビにもかかわらず、アホみたいに自信を持っている太郎
に、お姫様はひどく感銘をうけ

「はい。結婚しましょう」

太郎は喜びました。そりゃ、喜びました。

「でも、一つ条件があります」

お姫様は微笑して、シャネルのバックから小槌を出しました。

「この小槌を振って願いをすれば、願いが叶います。どうぞ、背が大きくなりますように…と、お願いしてくださいませんか？」

太郎は悩むことなく

「もちろん！」

太郎は小槌をふりました。

（どうか……どうか私の体を大きくしてください）

その瞬間、小槌がぎらっと光り、閃光と共に太郎の体はぐんぐんと大きくなっていきました。

しかし、大きくなったのは体だけ。太郎は小さな服をビリビリ破り、アソコもソコも完全に露出しました。

と、そこへ来たのは警察。

「現行犯逮捕だ！」

太郎は言い訳する暇もなく、署にしょっぱかれました。

太郎の逮捕は、お婆さんとお爺さんの耳にも届きました。

太郎は未成年であるため、お爺さんが保護者の監督不行届として、隣国の警察まで呼び出されました。

一人残ったお婆さんは、近所の人々から白い目で見られ、ストレスが溜まってしまいました。

「こんちくしょー!」

お婆さんはイライラのあまり、雀の舌を切りまくって、動物愛護団体に訴えられたそうなの。

めでたしめでたし。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9301b/>

読みたくなかったら読まなくていいよ。

2010年12月7日14時38分発行